

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	ファミリア小坂		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716番地1		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然に囲まれ利用者様も近隣の方々が多く、今までと変わらない環境で生活ができるよう努力している。月毎に行事等を工夫し、馴染みのある地域の皆様に依頼し、歌や踊りを楽しんでいただいている。またご家族にも事前にお知らせしてご来訪をお願いしている。利用者様の残された力が発揮できるよう、法人の理念を職員が理解し意識をもって支援していきます。災害時には少しでも地域に貢献できるよう、避難場所として使用していただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境に立地し、地域に根差した事業運営を行っている。今回は、新型コロナ禍の影響を受け、独自の生活様式の構築に努めている。現在、利用者や家族の面会を自粛しているため、利用者が孤独感を感じないように、職員は代替プログラムに知恵を出し合いながら、支援を行っている。管理者は、昨年、インフルエンザのホーム内感染の経験を踏まえ、今年1月には、新型コロナウイルスの影響について、世相に先駆けて把握していた。そして、職員と共に、困難を克服出来るように、強固なチームワーク作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札に理念を記載することで、常に理念を意識・共有し介護サービスに努めている	理念を名札やホーム便りなどに明示し、職員会議や学習会で、その意義を共有している。日々、利用者との信頼関係を築きながら優しく寄り添い、安らぎのある暮らしが送れるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方が、脳トレクは毎月、歌謡ショー等は年に数回披露していただいている。保育園児の来訪時はダンスなどをしていただいたりと地域とのかかわりを大切にしている	自治会に加入し、地域の一人として関わっている。今期は、新型コロナウイルスの影響を受け、地域住民やボランティア団体、園児との交流を中断している。収束した際には、これらが復活できるよう、準備を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成委員を通じて、地域の困りごと・問題など受け専門職としてのアドバイスをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案頂いた件について、会議等で話し合い、実施する努力をしている	新型コロナが蔓延する直前までは、定期に開催できていたが、その後は、中止して。1月の会議では、インフルエンザ予防対策を話し合っており、現在は、新型コロナ感染予防対策にも取り組みながら行政からの情報提供や指導を得て、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者と連絡を取り合い、協力関係を築けるよう努めている	市の担当者とは、日頃より連絡を取り合っている。感染症や災害対策、人材確保などを相談し、助言を得ている。厚労省や県からの通達も書面で得ている。事案によっては、市の窓口に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について年2回施設内研修で学習し、毎月委員会において拘束することの必要性の有無を検討し拘束しないケアを心がけている。又、身体拘束適正化評議会を設置し年4回身体拘束について評議している	身体拘束等適正化委員会を開催している。職員研修会も定期的に行い、虐待や拘束の具体例を学び、拘束ゼロを目指している。利用者の安全を守る為、やむを得ない場合は、家族の同意を得て、最小限の対処に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は年2回施設内研修で虐待防止について学習し、また会議や、虐待防止委員会で話し合い虐待を起こさないケアに努めている		

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は成年後見人制度の新規利用者もなく施設内研修も行いませんでしたが、個々に必要性のある方については、職員間で話し合い活用できる支援に努めました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の方針等を説明し利用者家族の不安や疑問について、理解・納得して頂けるように説明している。改定等があった場合には文章で案内説明を行い理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出た意見や要望は、管理者・職員間で共有し運営推進会議等で協議し運営に反映できるように努力している	利用者の意見や要望を、日々の支援時に把握するよう努め、家族とは、面会時や運営推進会議、介護計画作成時に話し合っている。意見・要望等は、受付簿と業務日誌に併記し、改善できる事は速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や提案を聞き職員会議等で問題点や意見を話し合い運営に反映できるよう努めている	管理者は、日常勤務の中で職員の気づきや意見を受け止め、職員会議でも話し合っている。新型コロナの影響を受け、利用者と外部との関わりが制限されるため、レクリエーションの代替企画、脳トレ体操など、職員が創意工夫しながらケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修などに参加しやすいようにシフトを考慮している。向上心・やりがいを持ってもらうために、給与水準を上げる努力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決め、それに沿った勉強会をやり職員が学習できる環境を確保し法人以外の研修も積極的に取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同法人の管理者・主任職員で定期的に勉強会をやり問題点の共有・解決策を思案し、サービス向上の取り組みをしている。また市の会議や講演会などにも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に本人の情報や要望等を収集し安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・心配事・要望等を傾聴し要望などを傾聴し、相談しやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前より本人・家族にアセスメントをおこない、必要としておられる支援がサービスとして反映されるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が押し付けるのではなく、本人と同じ目線・立場で介護していけるよう常に心がけている。本人の人間性・性格・病歴なども理解し、配慮した介護を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や思いを家族と共有し、意見を伺いながらともに支援していけるような、関係が築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の馴染みのある理容室の方に出張理容室として来ていただいたり、歌謡ショーや踊り・大正琴の演奏会を地元の方がボランティアで来てくださったりと、馴染みの方との交流が途切れないように努めている	馴染みの理容師が訪れている。ボランティアや訪問販売のパン屋、ヨーグルト配達員も馴染みである。現在は、コロナ禍で中断している。家族には、定期検診の帰りに利用者と一緒に馴染みの場に立ち寄ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性、利用者間の関係性を把握し、食事席などを配慮し、お互いに心安らかに過ごせ良好な関係を築いていけるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居・病院への入院の際は、サマリーなどで情報提供し、環境が変化しても本人が安心して過ごせるように対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望・意向の把握できるよう、定期的にカンファレンスを実施し、検討している	個々の生活歴から利用者の得意なこと、苦手なこと、こだわりなどを把握している。困難な人は、問いかけ時の反応や表情から汲み取っている。定期的なカンファレンスの実施で、その人らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人とかかわりを持つうえで、生活歴を色々な話をしながら伺ったり、生活環境や生活習慣についても把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録・介護日誌を活用し情報を職員全員が周知し一人一人の状態や1日の過ごし方などを、かかわりを多く持つことにより把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に一度本人・家族に意向を確認しケアプランに反映できるようにするとともに共に、カンファレンスを実施し職員全員が情報を理解するように努めている	介護計画は、職員の気づきや意見を検討し、本人・家族の意向を踏まえて作成している。家族の意見は、面会や電話、会議の場でも確認している。医療支援や筋力維持の為の支援もプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個人記録・特記録に記入することで情報を共有し、ケアプランの見直しに生かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の減少により、日々の業務に追われているが業務を見直すことにより、柔軟な支援やサービスが行えるように工夫している		

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レク介護士の方の毎月の訪問や出張美容室などの利用、地域のボランティアの方の訪問、職員の行事の工夫などにより豊かな気分で暮らしを楽しめる工夫をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医に定期的な受診を家族との連携を図りながら支援している	協力医による月2回の往診がある。地元の診療所と、下呂総合病院とも連携している。通院は、家族の都合によっては職員が代行し、急変時には、高山市の2つの総合病院への移送が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定で個々の体調の変化を、看護職に報告・相談し適切な看護が受けられるよう、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の情報交換については医療機関とサマリーによりしている。又退院時は訪問し様子・ケアの変化がある場合は検討会を開催し職員間で共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看護師により健康管理を行っているが看取りはしていない。本人・家族の意向を確認し望まれる生活ができるように支援している	重度化した場合は、ホームでの生活ができるまでとし、特に食事の摂取ができなくなった時を限界としている。ホームでの看取りは行っていないため、段階的に主治医と家族、関係者が話し合い、医療機関や他機関への移転等の選択を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で救急対応を研修したり、看護職によるシミュレーションを行い実践できる努力をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による火災訓練は夜間を想定したものも行った。連絡網の整備、備蓄品の購入はしてある。地域との協力体制も避難場所としての利用をして頂くようにした。ハザードマップなどもわかりやすい場所に掲示してある	火災訓練は、夜間想定に加え、水害に備えた2階への垂直訓練を実施している。備蓄品には、新たに感染予防対策の為の備蓄を追加している。地域の防災訓練にも参加し、区長や区民との協力関係を築いている。	7月の豪雨によって、向かいの山谷から敷地内への浸水や土砂流入を体験している。停電を含め、各種災害に備えたマニュアルの見直しに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の誇りを大切に権利を守り、いやな思いなどされないように対応している。話し方・態度についても職員の意見を聞いて確認し対応している	職員は、常に利用者の人格を尊重した支援に努めている。トイレ・入浴介助では、特に羞恥心に配慮をしている。言葉かけをする際は、利用者目線を合わせ、笑顔で語りかけるよう心がけ、現在のコロナ禍で、孤独感を感じないように細やかな支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の繰り返しの生活の中、利用者の話を聞いて支援できることがあれば対応している。要望があれば可・不可にかかわらず、記録・申し送りをし職員全員で共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた支援を心がけている。利用者の体調に留意しながら、希望に沿った暮らしをして頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣準備・介助において、利用者のご自分で希望の服を選び来ていただいている。出張美容室・理容室の利用で身だしなみを整える支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間となるように、メニューの説明、季節の郷土食などを提供し、利用者と冗談も交えながら会話を楽しみ、手作りおやつなどの調理、盛り付けをして頂いている	居間には、当日の献立表をパネルに掲示している。栄養バランスと品数、季節の彩りを添え、個々の嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。職員は、利用者の自立度に応じた介助や見守りで対応し、楽しい食事時間となるよう雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状態に合わせて、刻み食・ペースト食なども提供し、声掛けや介助により、食事の栄養がバランスよく摂取できるよう努力している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導により、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。拒否される方もいるので、声掛け・介助・アプローチの仕方を職員間で検討している		

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで排泄パターン・状態を把握し、声掛け誘導などで排泄の自立に向けた支援をしている	個々の排泄パターンに応じて、声かけを行っている。医療具の装着者も多いが、出来るだけトイレでの排泄につなげている。夜間は、個々におむつ用品を選択し、必要な人には、居室にポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムや便秘の原因を把握し主治医・看護師の指示での内服薬・座薬の使用と、水分や乳酸飲料を摂取することで便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に応じて個浴・機械浴を週2回利用していただいている。汚染時や外出・通院時など入浴できるよう柔軟に対応している。又季節を感じるできるよう、しょうぶ湯・ゆず湯・ラベンダー湯などを楽しんでリラックス効果をかんじてもらえるよう支援している	入浴日は週に2回であるが、利用者の状態に応じて柔軟に対処をしている。また、身体機能や希望に応じて、機械浴で支援している。入浴を拒む人には、タイミングを工夫したり、介助職員との相性にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態・体調などにより介助の必要な方は定時のほかに、訴えや職員の気づきにより休んでいただいている。又自立されている方は、ご自分の判断で休まれている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・服薬忘れが無いよう職員同士で確認している。状況により主治医・看護師に相談し指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業の新聞折・タオルタタミ・テーブル拭き等個々の状態に合わせ役割を持っていたりしている。行事参加・カラオケ・散歩などでも気分転換できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて戸外での散歩・散策を楽しんでいただいている。また家族に外出の機会を持っていただくよう依頼している	日常は広い敷地内を散歩し、四季の風景に触れている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、やむを得ず自粛しており、屋内での活動を支援しているが、一部の家族に、外出の意義や実践状況が伝わっていない。	現在は、自粛を余儀なくされているが、新型コロナウイルス収束後に向けて、今までの実績を掲載して、年間を通じた外出計画を家族に提示するなど工夫し、家族の理解と周知に期待したい。

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は出張販売や施設内の自販機で買い物やされている。管理できない利用者には必要に応じて家族にお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は施設の電話を使用している。携帯電話の使用もできるが持っておられる方は、現在はおられない。職員が希望を聞き代行するときもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除分担をしっかりと行い、清潔・安全に過ごして頂けるよう心掛けている。共有空間には、お雛様・クリスマスツリーなどを飾り付け、季節を感じていただいている	共用の空間は広く、長い廊下のある造りである。七夕飾りや風鈴にも季節感がある。壁には、塗り絵や貼り絵作品を飾り、飛騨川を窓越しに眺めることができ、高山線の列車の音も聴こえてくる。大型テレビが備えてあり、利用者はソファでゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は相性などを考慮し決めているが状況に応じ適宜交代していただいている。安心して穏やかに過ごせるよう、職員が同席したりと工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のできる方は家具等の配置はご自分で決められている。物が多すぎる場合は本人・家族と相談し対応している。音楽を聴かれたりと居心地の良い空間づくりを心がけている	居室には、馴染みの物を持ち込んでいる。持ち物については、家族と相談して決め、ゆとりの空間を確保している。趣味の作品やペットのぬいぐるみ、記念写真などを飾り、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を活用し安全で自立した移動ができるよう支援している。歩行器などが安全に使用できるよう、椅子等の置き場所なども配慮している		